平成 29 年度 尼崎市地域保健問題審議会議事録要旨

1 日 時 平成 29 年 7 月 5 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 15 分

2 場 所 尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール

3 出席者

(委 員) 藤原会長、黒田副会長、尾ノ上副会長、橋本委員、牧委員、松田委員、磯田委員、
稲垣委員、中馬委員、永井委員、秋田委員、公門委員、高谷委員、徳田委員
(委員 14 人)

(事務局) 郷司医務監、檜垣保健部長、鈴木保健所次長、松長保健企画課長、森田健康増進
課長、吉田事業推進担当課長、針谷疾病対策課長、西村生活衛生課長、竹内公害
健康補償課長、石井保健センター所長、堀池地域保健担当課長、小島ヘルスアッ
プ戦略担当課長、山本健康支援推進担当課長、中保健企画課係長、藤井主事
(事務局 15 人)

4 欠席者

(委 員) 林委員、北野委員、箕浦委員 (委員 3 人)

5 議事録

○ 開会あいさつ

委員の出席状況、傍聴者の状況 (なし) 報告

○ 郷司医務監あいさつ

○ 各委員紹介、事務局職員紹介

○ 会長 (1 名)、副会長 (2 名) 選出

会長…藤原委員、副会長…黒田委員、尾ノ上委員

○ 藤原会長あいさつ

○ 黒田副会長、尾ノ上副会長あいさつ

○ 議題

(1) 現計画の最終評価の概要と次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の構成イメ
ージについて

資料 1-1、1-2、1-3 に基づき、事務局より説明。

発言者	発言内容
委員	たばこががんについて質問したい。資料 1-1 の 05 で、最初の 01 にもあつたが、周産期の喫煙行動の対策は私も存じている。これは引き続きやっていただきたい。父親の喫煙率が平均よりも高いということや、自宅で吸っていることをどう解釈すれば良いのか。母数が全然違うのは分かるが、子どもを持つ父親が若

	<p>年者であるから統計的に喫煙率が高くなっているのか。その対策として、個々の禁煙に対する施策はよく分かるが、もうひとつよく言われているのはマナーとしての路上喫煙である。それが今回ここでは触れられていない。今後に向けた課題として、受動喫煙の認知向上はよく分かるが、マナーの向上はどうか。</p>
事務局	<p>乳幼児期のアンケート結果で、父親の喫煙率がやや高い点については、理由の分析まではできていない。これは乳幼児健診の際に実施しているアンケート調査なのでほぼ全数の結果である。父親の年齢幅はあるが、母集団数の差異なのか、そのあたりの分析はできていないのが現状である。</p>
委員	<p>子どもは無防備なので、そここのところの対策はきちんとして欲しい。車の中で子どもを乗せて吸っている親がよくいる。とんでもないことである。</p>
事務局	<p>資料1-3に「たばこ対策推進プロジェクトチーム会議」とある。たばこ対策は、健康の問題、マナーの問題、吸い殻ごみの問題等、様々な問題が出てきている。地域保健問題審議会は保健分野の審議会なので、今回取り上げているのは、たばこによる健康への影響という健康教育の部分と、受動喫煙防止と、あと資料1-1の05の中ほどにあるが、約30%が何らかの理由でたばこをやめたいと思っている。禁煙したい人を支援しましょうというところである。プロジェクトでは、おっしゃる通りマナーや路上喫煙について検討をすすめている。路上での受動喫煙による健康被害については、まだ厚生労働省でも科学的な根拠がはっきりしていないので、路上喫煙問題に関しては大体どこの自治体も迷惑行為防止や吸い殻ごみの防止という対策がメインになっているのが現状である。</p>
委員	<p>尼崎市の総合計画に携わっている。前期計画では分煙についての記載が非常に曖昧だった印象がある。これが後期計画でどのように記載されているのか知らないが、喫茶店やレストラン等の分煙・禁煙について、前期計画ではきちんと明記されておらず曖昧な計画だったと記憶している。そこがこのデータを見て気になった。</p> <p>それから第2次の概要版の5ページを見ると、喫煙に対して男性は全国平均と比較すると尼崎市は低いというデータがある。こういうことを考えると、尼崎の社会の中の日々の生活での分煙を考えていただいた方が良いのではないかと。</p>
会長	<p>前半部分の喫茶店等についてはどうか。</p>
事務局	<p>店舗での禁煙・分煙に関しては、兵庫県の路上喫煙防止条例が施行されて以降、県内で取り組みがなされている。昨年、尼崎市内の店舗の分煙・禁煙状況のアンケート調査も行っている。そのデータがどのようなものかはまだ分からないが、その結果も参考にしながら、市としてどういうところをターゲットにしていくのか方策を練っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>兵庫県の受動喫煙防止条例は、藤原先生が会長をされて策定された。現在5年経過して見直し時期にきていると思う。そここのところはどうなっているのか。</p>
会長	<p>昨日、第1回の見直しの検討委員会が行われ、スタートしたところである。受動喫煙に対する雰囲気も以前とは大分変わってきている。前よりはきっちりしたものにしたいという方向である。</p>

委員	禁煙に対しては随分進んできているような気がする。このアンケートは、健診受診者にアンケートを取っているのか。子どもの年齢が上がるごとに、母親の喫煙率が上がっているというところが気になった。
事務局	アンケートは2つある。一つは、3か月、1歳6か月、3歳の、それぞれの健診で全対象者に実施しており、ほぼ全数把握ができているものである。もう一つは、今回健康づくりアンケートとして最終評価をする時にご協力をいただいたアンケートがある。最初の資料Aの「データ元」に記載しているが、「アンケート28年度」が健康づくりアンケートの調査結果を示しており、「健やか親子」が先ほど申し上げた乳幼児健診時を対象にしたアンケート結果となっている。両親の喫煙率については、「健やか親子」の方のアンケートデータである。
委員	それともうひとつ気になったのは、01の性教育についてである。避妊に関してはコンドームの使用割合が高いが、性感染症についての取り組みはなされないのか。
事務局	性感染症対策については、伸び悩んでいる。その点については課題認識を持っており、健康増進課と疾病対策課と共同して学校に入っていくことを考えている。学校は行事が多く、一つひとつでカリキュラムに入っていくとすると大変なので、共同でのプログラムをうまく活用しながら性に関する啓発を少しずつ広げていこうと関係課で調整しているところである。
委員	08のがんの件について、先ほどの説明で平成28年度から40歳を対象にクーポンを配布しているとのことだったが、28年度の受診率が大腸がんにしても肺がんにしても上がっている。受診率が上がったのはクーポンの効果と考えて良いのか。また40歳の受診率は以前よりも上昇しているのか。
事務局	クーポンを送った詳細は今資料を持ち合わせていないが、初めてがん検診を啓発する世代として40歳の方にクーポンを送っている。他の年齢の方と比べると、クーポンを送った方はやはり受診されていると感じている。
委員	それなら、40歳だけに限るのは逆方向ではないか。これまでは40歳、45歳という区切りでクーポンを配布していたと思うが、今回は65歳以上を廃止にして40歳だけに限定した。それはむしろ逆方向ではないのか。
事務局	本来であれば、きめ細かく無料クーポンで受診できるようにすれば良いが、限られた財源の中でまず早期治療に繋げる意味で、40歳になったらがん検診を受けようという啓発を優先的に施策に入れた。おっしゃるように5歳や10歳きざみでクーポンを配布し続けられると良いが、国の仕組みとしてそれがなくなった中で、初めてがん検診を義務付けられる年齢というところでそこに絞った。おっしゃることはよく分かってはいる。
委員	受診率の向上については検証が難しい。来年40歳になる人を対象にまた実施して、その先の受診率をまた解析して欲しい。
事務局	引き続き啓発していきたいと思っているし、仕組みのところでもう少し工夫が必要だと思っている。
委員	08に10代、20代の若年層へのがん啓発の推進が必要と評価に書いてあるが、

	具体的な方針は何かあるのか。
事務局	文科省でも教育のプログラムの中で、がんについての教育を盛り込んでいこうということがモデル的に実施されている。本市においても、あるモデルの大学とがん啓発の取り組みを今年始めてみようという流れになっている。20代の子宮頸がん検診については、受診者はクーポンを配布した人である。20代に早期がん検診を受けてもらう仕組みは、それぞれ個別の啓発だけでは難しいと思っている。他市の取り組みを見ると、大学や、高校生と一緒に教育の中で啓発プログラムを取り入れている。そのあたりを考えていきたい。
委員	大学のモデル校とおっしゃったが、私の所属大学が地元なので、協力できるところは協力したい。
副会長	資料1-2の次期計画の概要では、施策10と11を施策10「健康支援」として統合するとのことだが、両方をこの会で決めていくのか。それとも、本審議会では「地域いきいき健康プラン」についての審議だけをすれば良いのか。統合した後の審議の仕方について教えて欲しい。
事務局	今年度策定作業を行う「地域いきいき健康プラン」の構想については、資料1-3でお示した形を考えている。このいきいき健康プランについては「ライフステージに応じた健康づくりの支援」の部分も含めて皆さんにご審議いただきたい。データヘルス計画は国民健康保険の受診者が対象となるので、別途運営協議会がある。データヘルス計画と健康増進計画が重なる部分がだんだん大きくなってきたが、このいきいきプランについては、本審議会でご審議いただきたいと考えている。
副会長	ヘルスアップ戦略推進会議は別に作るということか。
事務局	ヘルスアップ戦略推進会議は昨年からの取り組みで、横断的にそれぞれの組織が市民と協働で取り組む健康づくりを抽出し、全庁的に取り組む会議体である。今回のいきいきプランの策定作業について、今までは保健部が主となり、一部ヘルスアップ戦略会議の事務局とも協力しながら進めていたが、今回はまさに両輪のような形で、いきいきプランの中の健康増進計画にあたる部分についてはヘルスアップ戦略会議の場を使い、その中に健康増進計画策定部会を作り、そこで骨格を作ってもらっていただくことを考えている。そこにはもちろん保健部のメンバーも入っている。一緒にやっていくというイメージを持っている。
副会長	資料はできれば複数枚綴られているもののページ数があつた方が、皆さんもデータと確認しながら意見を聞けるのではないか。
事務局	それに加えて字もとても小さく複雑な資料になってしまい、申し訳ない。今後改善をしていきたい。
委員	この資料になかなか頭の方がついていかない。もう少しゆっくり読んでいただきたい。
会長	それと、字が小さいのはいけない。
事務局	今日は多くのボリュームの概要を説明したが、資料をお持ち帰りいただき、ご意見・ご助言があれば、遠慮なく事務局までお問い合わせ願いたい。ご説明に上

	がらせていただく。
委員	一点気になったのが、中高生の喫煙、禁酒についてである。どういうアンケートを取られているのかわからないが、ピンポイントでその家族に指導をされているとか、ある程度状況を把握しているとかはあるのか。
事務局	今回、教育委員会にかなりご協力をいただいた。これまでは市内のモデル校に対しアンケートを取っていたが、今回は全中学校 17 校、尼崎市立の高校 3 校全てに行っている。ただ、無記名のアンケートなので、ピンポイントで把握することは難しい。公表はしていないが、学校ごとの集計結果は各校に返している。なので、学校側では全体の集計結果と自校の結果を比較できるようにはしている。
委員	お酒を飲んでいる、たばこを吸っているということは、おそらく「助けてくれ」と言っていると解釈できるのではないかと思う。
委員	今日初めてこの会に参加し、たくさんさんのデータを初めて見た。資料を持ち帰って改めてゆっくりと見たいと思う。05に「喫煙経験がある」という中1、中3、高3の割合が出ているが、改善されてきている。こういう子ども達が大人になった時にうまくその状態を維持できていれば、子どもがいる父親の喫煙率も下がってくるのではないか。全てのデータについてはまたゆっくりと見て、また何か気づくことがあれば発言したい。
委員	今日の議題は「地域いきいき健康プラン」についてだったが、今、地域医療構想という、地域人口の高齢化率や人口動態を勘案して医療圏域の病床数を削減し、それを全部在宅医療に持っていこうという施策が進んでいる。2次医療圏としては阪神南圏域で、また尼崎市単独では地域包括ケアシステムとしてやっていくことになるが、その点についても保健医療計画に関わると思う。それも少しはこの会で議論が必要だと思う。特に、国も在宅医療の施策を重点的に進めている。在宅医療が進むと、医療だけでなく介護にも関わってくる。そうなると、圏域より市の役割が非常に大きくなると思う。その点については今後、尼崎市としてどの場で検討していく予定になっているのか。
事務局	在宅介護については、このいきいきプランの中でも記載する内容になると思う。在宅医療と介護の連携は、地域包括ケアの構築ということで、本市包括支援担当で進めている取り組みもある。保健所と包括支援担当とで役割分担をしながら審議を進め、一定の方針を作っていきたい。
委員	この地域保健問題審議会には各分野から皆さんが出席している。いきいきプランの中だけでなく、本審議会の場で議論していく問題もあるのではないか。
事務局	在宅医療の考え方についても、ご意見をいただく場になると思っている。地域医療構想をメインとして本審議会を開催するかどうかは今回回答できない。いきいきプランをきっかけとして、在宅医療に関するご議論をいただく場は出てくると思っている。

(2) 次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定にかかる計画策定部会の設置について

資料2に基づき、事務局より説明。

発言者	発言内容
会長	計画策定部会のメンバーについては、各分野から2名ずつとしたい。 医療関係者から黒田委員と松田委員、学識経験者から稲垣委員と磯田委員、市民団体代表から北野委員と公門委員の6名でどうか。
委員	私は遠慮させていただきたい。
会長	それでは代わりを誰にするか。
事務局	公門委員のご辞退の申し出を受けた。各分野から1名ずつというのが事務局としてはバランスが取れると思っているが、高谷委員を事務局案として提案したい。
会長	よろしいか。
委員	了解した。
会長	よろしく願いしたい。
事務局	本日ご欠席の北野委員への依頼を行った上で、本日の議事録送付の際に、計画策定部会委員一覧表として皆様に再度報告させていただく。 計画策定のスケジュールについては、資料2の2枚目になる。12月にパブリックコメントを予定している。本日7月5日の総会を受け、7月から11月の間に計画策定部会を2回程度開催し、パブリックコメントに向けて素案を作成したい。その後、素案の修正等を踏まえて計画策定部会を再度開催し、その上で総会にて皆さんにご審議いただく予定である。
会長	特に他にご意見がなければ、本日の審議は終了したい。 事務局より連絡事項等はあるか。
事務局	特にない。
会長	以上をもって、本日の審議会を終了する。ありがとうございました。

以上